

街路樹

学力向上に向けて ⑳

～ 授業を支えるツール ～

先日実施した授業力向上講座Ⅰで、講師の先生方の講義に様々なツールを使う姿がみられました。

筑波大学附属中の蒔田守先生：英語の授業でi-podの利用
岩手大の山崎浩二先生：プレゼンテーションソフトを使った授業
文科省の直山木綿子先生：電子黒板で英語ノートの展開

市内の小・中学校にコンピュータが導入されて20年が経過しました。当初は4人で1台、2人で1台という配備でしたが、1人1台となり、インターネットへの接続、通信回線の高速化など、時代の流れとともに、利用環境が向上してきました。この間家庭への普及も進み、人口普及率では75%を超え、児童生徒にとってコンピュータを使うことが「当たり前」になってきています。

一方で、情報化の進展による影の部分は、児童生徒に触れるところにまで及んでいます。新学習指導要領では、小学校で「適切に」、中学校では「適切かつ主体的、積極的に」コンピュータを活用すると述べられていますが、同時に発達段階に応じた組織的、計画的な情報モラルの指導も求められています。社会の状況や変わり、子どもたちの意識も変わる中、私たちはどうでしょうか。

校内に目を向けると、校内LANの構築や授業で活用するデジタル教材の整備が進み、既に活用している学校もあります。様々な教育機器が、児童生徒に確かな力を身に付けるために導入されています。そのためには授業全体の構想や教材研究のもとで、効果的な場面で活用することが大切です。

活用されているでしょうか？

“食わず嫌い”にならず、新しい授業のツールを身に付けて授業に臨んでみてください。



前述した講師の先生方から学べることは、優れた実践理論や実践だけではないはずです。

幼小連携講座講義より

〈連携の必要性〉

○ 幼児期の教育と小学校教育では、教育内容や指導方法が異なっているが、子どもの発達や学びは連続している。

〈連携の効果、●留意事項〉

1 **子ども同士の交流**・・・幼児は小学校生活に親しみ期待を寄せ、自分の近い将来を見通すことができる。児童はかかわりを工夫したり、思いやりの心を育んだり、自分の成長に気付いたりする。●双方にとって意義のある交流活動となるよう、指導計画の作成、教材研究を深める、事前の打ち合わせ等を行う。

2 **教職員の交流**・・・円滑な接続に向けた指導方法の改善ができる。発達の段階に応じて果たすべき役割について再確認できる。●相互の教育内容や指導方法の違いと共通点、実態について理解を深め、発達や学びの連続性を確保する。●合同の研修会、授業参観等、相互理解の機会を設ける。

3 **保育課程・教育課程の編成、指導方法の工夫**・・・段差を小さくすることにより、生活の変化へのとまどいが減る。

－国立教育政策研究所 教育課程調査官 篠原 孝子－

授業改善・指導技術 ㉑

～ 評価を指導に生かす その3 ～

◇ 評価観の転換と授業、学級経営 ◇

- ① 受身的評価から主体的評価へ・・・どの子も変容があるはず
 - ② 結果の評価から過程の評価へ・・・1時間の評価、仕上げた作品などで評価するだけでなく学習過程の中での活動を
 - ③ 部分的評価から包括的評価へ・・・単元レベルなど包括的に
 - ④ 否定的評価から肯定的評価へ・・・励ましていく評価
 - ⑤ 一時的評価から継続的評価へ・・・テストや作文だけの評価でなく、子どもの継続的な活動を(作文;取材、構成、叙述等)
 - ⑥ 量の評価から質の評価へ・・・内容面で工夫したものなど
 - ⑦ 平均的評価から個別尊重の評価へ・・・子ども一人一人が取り組んだこと(リーダーのいるグループの評価が高いなど)
 - ⑧ 遅延的評価から即時的評価へ・・・その場その場での評価があつて子どもも伸びる。今したことは、その場で評価して欲しいと子どもは思っているはず。
 - ⑨ 教師の評価から自己評価、相互評価へ
- ※ 子ども一人一人をどのように見ていくかという評価観の転換によって、変わるもの、見えるものがある。

学級経営のヒント ㉒

～ 褒めること、叱ること その2 ～

叱るのは、教育的配慮の中で叱るのであって、感情的に叱るのではない。「叱ること」に関して心がけたいことは。

- ① 感情的な叱り方をしない。
- ② 時と場、全体と個別の場を考慮して叱る。
- ③ いけないことはいけないという毅然とした態度をとるようにする。
- ④ 過去のことを取り上げて叱らないようにする。
- ⑤ 家庭環境のことを話題にしない。
- ⑥ 納得できるように語りかけるようにする。
- ⑦ 叱ることで逃げ道がなくなるような言い方はしないようにする。
- ⑧ 信頼しているという気持ちで接し、児童生徒理解のもとに叱る。

※ どのような場合でも体罰にならないようにする。

不登校対策講座②の感想より

○ 「自分の目にとげはないか。自分の言葉にとげはないか。自分の気分にとげはないか。」という3つの視点で反省することが心に残りました。反省できる教員になりたいと思います。(小・I)

○ 不登校を「困ったこと・悪いこと」とネガティブにとらえるのではなく、この子どもにとって「必要なこと・大事なこと」とポジティブにとらえること、ということが勉強になりました。(中・N)

○ 「子どもが喜ぶことができる人」「子どもを引きこんでやらせることができる人」というお話を聞き、私自身もつと成長しなくてはと思った。(中・K)

○ 適応教室に行っている生徒はいますが、実際そこで何をしているかなど詳しいことは把握していませんでした。これではいけないと強く感じました。(中・M)